

## 11 いちごのユニバーサル観光農園を目指して

### 1 はじめに

姫路市香寺町の花岡邦敏氏は、1996年に脱サラをしていちご栽培を始め、多くの人に安全でおいしいいちごを直接食べてもらうため観光いちご園をオープンした。

妻の裕子氏は、民生・児童委員に就任され、社会的弱者と言われている障害者や高齢者等に観光農園が利用しづらい実情を知った。

そこで、2001年に施設面積3,000㎡への規模拡大にあわせて、障害者、高齢者、赤ちゃん連れなど誰もが観光農業を楽しんでもらえるよう、いちごハウスのバリアフリー化を進めた。

### 2 人に優しい観光いちご園

施設は、車イスでスムーズに移動していちご狩りができるように、高設栽培を導入し、通路を広げ、ハウス出入口の段差を解消した。

高齢者や障害者等にゆっくり楽しんでもらえるように、いちご狩りの料金は時間制限を行わず、100g当たり200円とした。

ハウス内にテーブルやイスを置いたイートインスペースを設け、収穫したいちごを自然に近いところで食べ、ゆっくりと過ごせるようにした。

子育て中の親子等を招待する中で、口コミで広がり、他の農園では「お断り」の多い障害者や乳母車の来園が増えた。

### 3 こだわりのいちご加工品

裕子氏は食への関心も高く、調理師の経験を生かして「こだわりのいちごジャム」を商品化した。

試行錯誤の末、甘さを控え、いちごの姿や香りを残したフレッシュジャムを完成させた。

さらに、このジャムを活用したアイスクリームやいちご風味のシャーベットも商品開発し販売につなげている。また知人のデザイナーに頼み、ラベルや箱、名刺をつくり、オリジナルブランドにこだわりを持たせている。

### 4 今後の目標

花岡農園では、自家製のいちごを使ったパフェやジュースを提供するパーラー又は農家レストランのオープン、車イスで入れるトイレへの改善などを計画し、ユニバーサル観光農園の充実を目指している。

遠藤 邦子（姫路農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0792 - 81 - 3001）



図1 ゆったりした空間でいちご狩り



図2 こだわりのいちごジャム